

# 地域の障害者の生きがいに繋がる障害者スポーツの推進

障害者スポーツの有効性に着目し、地域在住の障害者への生きがいづくりに繋がるよう支援している。また施設の資源を地域に開放し、地域との交流を深めることにより、障害者福祉の増進に寄与していこうとする取り組みである。

兵庫県

社会福祉法人

円勝会

〒679-4132 兵庫県たつの市嘗田町福田780-3  
TEL: 0791-63-2700 FAX: 0791-62-0463

## ○法人設立年／昭和62年

## ○法人実施事業

- ①経営施設数合計：7施設
- ②経営施設・事業  
障害者支援施設…3、介護老人福祉施設…2、小規模多機能型居宅介護施設…2、通所介護事業…2、訪問介護事業…2、老人短期入所事業…2、地域包括支援センター…1、障害福祉サービス事業…5（生活介護・機能訓練・生活訓練・就労支援B・短期入所）、障害者ケアホーム事業…10

## ○法人の理念・経営方針

ノーマライゼーションと人権尊重の理念に基づき、専門的なサービスを提供することによって利用者一人ひとりが尊厳をもってその人らしい安心のある生活が送れるよう自立を支援していきます。

## ○取り組みの法人での位置づけ等

法人の地域貢献事業の一環として、従来から継続的に実施している。

## ○取り組みを実施している施設の概要

### 【施設名】

西はりまリハビリテーションセンター

### 【施設種別及び利用定員】

障害者支援施設 50名

## ○活動内容

- ◇活動開始年：平成9年3月
- ◇活動の対象者：  
入所利用者、通所利用者、地域住民
- ◇活動の頻度・時間：  
・スポーツ訓練（週3回、1回あたり1時間）  
・スポーツ大会・交流会への参加（年15回）

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人の運営する西はりまリハビリテーションセンターは、昭和62年に肢体不自由者更生施設として開設され、PTやOT、ST等の機能訓練を中心として重度の肢体不自由者を対象に、社会復帰や在宅復帰を支援してきた。しかしながら、経過年数とともに訓練のマンネリ化や活動性の乏しさが目立つ様になったため、平成9年頃より多種目にわたり「障害者スポーツ」をリハビリの一環として取り入れ、心身機能の向上を図ることを目指した。また平成9年3月に、併設の小規模療護施設西はりまナーシングヴィラが開設され、2階部分には地域交流スペースとしての体育館を設けることができた。この体育館の設置により、入所利用者の日頃の各種障害者スポーツを実施する機会は飛躍的に伸びた。また、平成13年から実施している障害者デイサービス事業の地域在住の利用者にも、その利用機会を提供することができた。更に近年は、地域住民や小学校、高等学校に対しても交流イベント等の場として、体育館を積極的に地域に開放している。障害者スポーツの普及推進を図りながら、地域福祉の向上を図っている。

## 実施内容

西はりまリハビリテーションセンターにおいては、維持期の肢体不自由者が殆どであるため、身体機能や精神的な活動性の低下を防ぎ、運動不足による二次的な廃用症候群を予防する必要性が高い。そのため、楽しみながら心身の機能維持回復を図る手段として、訓練プログラムの一部として障害者スポーツに積極的に取り組んできた。

### (1) 兵庫県車いす使用者スポーツ大会

年1回神戸にある公式の陸上競技場で開催される車いす使用者スポーツ大会には、施設をあげて参加している。平均して毎年30～40名近くの利用者が参加している。成績としては、金メダル・銀メダル・銅メダルを多数獲得し、チームとしての団体優勝11連覇を成し遂げている。

## (2) 全国障害者スポーツ大会

上記県大会出場者の中の成績優秀者は、全国障害者スポーツ大会に出場する兵庫県選手団の一員として選ばれる。実績として、平成10年より毎年1～4名の選手が選ばれ、出場している。成績も優秀で多くのメダルを獲得している。

## (3) 地域交流の媒介としての障害者スポーツ

### ①地域との交流

施設にある体育館を使用し、地域住民や小学校、高等学校の生徒に来てもらい、利用者との交流の媒介として障害者スポーツを活かしている。種目としては、フライングディスク、ボッチャ、卓球バレー、風船バレー、スカットボール等がある。

### ②スポーツ教室

フライングディスクや卓球バレーなど協会ボランティア団体に講師を依頼し、近隣施設や地域に参加者を呼びかけ、障害者スポーツの普及を行った。

### ③施設間の交流

県下の障害者施設間でのスポーツ交流会（ボッチャ、フライングディスク等）も定期的に行っている。招待ばかりでなく、出向いていくこともある。

## 活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

### (1) スポーツ大会参加の効果

参加された利用者の中には、あまり経験のない遠方外出、外出先でのトイレ動作、様々な条件での車椅子動作に自信をつけ、外出に積極的になれる利用者も見られる。大会では個人3位内に入ると金・銀・銅のメダルがもらえ、生活意欲の向上の良い契機になっているとも思われる。

更に全国障害者スポーツ大会への参加者にとっては、施設内には名前入りの横断幕が掲げられ、県の強化練習、市長激励会、県の結団式、市長への出場選手報告会、優秀選手賞の表彰式等、普段経験できないことの連続である。また、主催される県によっては、飛行機や新幹線等の交通手段を使い、ホテルに宿泊する等の施設での訓練以上の自信をつけることができる。スポーツ大会では、周りの人と連携し協力しながら成し遂げる充実感や達成感、スポーツを通じて形成された人間関係等、多くの副産物を得ることができる。

## (2) 地域在住の障害者への効果

通所サービスの利用者に対しては、体育館を使用してスポーツの機会を提供することにより、日中活動に対して前向きで積極的になれている。スポーツ技能の向上が図れ、また各種大会や交流会にも参加していただくことにより、目標を持ったメリハリのある生活を支援している。

## (3) 地域住民・学校関係者への効果

福祉施設での交流は、従来慰問的な行事が多かったが、利用者が日頃から取り組んでいて得意とする障害者スポーツを交流の媒介にすることにより、実際のコミュニケーションも図れる様になった。地域からの参加者には、障害者への偏見をなくし、理解を深めてもらうことができている。

## 今後の課題及び展開

今後の利用者の障害の重度化が考えられる中、ルールを変更したり、用具を工夫したり、新たなスポーツを考案してみたりしながら、より多くの利用者にスポーツの楽しさを感じてもらい、生きがいにつながる支援をしていきたい。

また、障害者スポーツを通して地域との交流を重ね、地域の方々に当法人での活動を広く知っていただき、福祉への関心や理解を得ることで、より障害者が住みやすい地域福祉社会を目指していく。地域社会の中で障害者福祉の情報発信基地となり、地域在住の障害者の方へ様々な障害者スポーツへの参加機会を提供することにより、施設を含め、地域全体の障害者の生活が元気で活発なものとなるよう努力していきたい。

## 主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 10名  
(職種等：施設長、生活支援員 等)

